

手稲区☆見守りの取り組み

誰もが安心して暮らせるまちに向け、今、地域でさまざまな見守り活動の輪が広がりつつあります。今年1月に白石区で起きた、姉と知的障がいのある妹の孤立死。このような悲劇を繰り返さないためにも、地域での見守り活動をより積極的に進めていく必要があります。今月は、見守りの取り組みをテーマに、皆さんで地域のことを考えてみましょう。

【問い合わせ先】保健福祉課活動推進担当 ☎681-2478

なぜ今「見守り」なのでしょう～貴重な命が救われた事例から

事例1

区内で一人暮らしのAさん（70歳代男性）。毎日のように、自転車で町内を走る姿が見られていた。ある日、近くの住民が、前日も前々日も自転車の置き方が変わっていないことに気付き、福祉のまち推進センターや、町内会役員、民生委員に連絡。訪ねると衰弱して倒れる寸前であった。病院で受診し、回復。事なきを得た。

※手稲鉄北地区福祉のまち推進センターでの事例

事例2

区内で一人暮らしのBさん（80歳代女性）。訪れた食材宅配配達員は、体調不良で寝込んでいたBさんに気付き、区に通報した。区は地域包括支援センターに対応を要請しすぐに訪問。病院で受診しインフルエンザと診断された。自宅療養だけでは脱水状態などが予想され命が危ぶまれた事例。関係者の連携で治療に至り、事なきを得た。

※「札幌市における高齢者の地域見守り活動に関する協定」での事例

上の事例からも、日頃から気に掛け、見守ってくれる「誰か」がいることの大切さが分かります。そのことは、災害時に援助を必要とする高齢者や障がいのある方など（災害時要援護者）の命を、いち早く救うことにもつながります。それでは、身近な所で行われている見守り活動をご紹介します。

地域での取り組み



区内7地区にある福祉のまち推進センターや、各町内会では、災害時要援護者を地域で支えるための取り組みの中で、日頃の見守り活動を進めようとしているんだ。

孤立する高齢者をなくすための訪問活動

前田ゆたか町内会（前田地区）



▲見守り・安否確認の様子

平成22年から、65歳以上の一人暮らしの方を対象に、見守り・安否確認を行っています。現在の対象者は27人。協力員が、2人1組で月1回訪問しています。活動の上で大切なのは、町内全体に活動の必要性を理解してもらい、隣同士で見守ろうという雰囲気をつくること。この点は根気強く呼び掛けていきます。今取り掛かろうとしているのは、地域福祉マップの作成。先進事例などを参考にしながら、災害時も見据え、互いの情報共有に役立つマップづくりができればと考えています。



前田ゆたか町内会会長
なかむら けんいち
中村 健一さん

災害助け合いマップ作成



▲マップづくりの様子

つくし町内会 （富丘西宮の沢地区）

アンケート調査と戸別訪問調査に基づき、災害時要援護者と支援者を結び付ける「組み合わせカード」を作成して配布。さらに、「災害助け合いマップ」を作成し、要援護者、支援者双方に配布しています。

● 災害時に向けた訓練



▲290人が参加した避難訓練

ぎょうせい 暁星第2町内会 （稲穂・金山地区）

70歳以上の全世帯を調査し高齢者名簿を作成。訪問活動のほか、高齢者の「ふれあいの集い」を定期的に開催しています。また、普段からの見守りを災害時の支援につなげようと、班ごとに行動する避難訓練を実施しました。